

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

94

秋の企画展

岡本太郎の博物館・はじめる視点

—博物館から覚醒するアーティストたち—

福島県立博物館



秋の企画展

岡本太郎の博物館・はじめる視点

— 博物館から覚醒するアーティストたち —

会期 平成21年10月10日(土)～11月23日(月・祝)



縄文土器・富山県出土・東京大学人類学教室
岡本太郎撮影・1956年 (川崎市岡本太郎美術館蔵)



基衝棺の副葬品・守刀の柄の飾り
岡本太郎撮影・1957年 (川崎市岡本太郎美術館蔵)

一〇代の終わりから二〇代の青春時代を岡本太郎は芸術の都パリで過ごします。多くの芸術家たちと親しく交流した岡本でしたが、彼が出会い引きつけられたもう一つの大きな世界が民族学でした。パリ大学ではマルセル・モースの講義を受け、人類学博物館に足繁く通いました。この人類学博物館コレクションの前身はパリ万国博のために世界各地から集められた資料でした。この体験は岡本太郎晩年のプロジェクト「太陽の塔」へとつながっていくこととなります。

第二次世界大戦のドイツ軍侵攻によりパリから日本に戻った岡本太郎は、過酷な軍隊生活を経て、戦後、再び大きな出会いを体験します。東京国立博物館での縄文土器との出会いです。縄文土器の迫力に圧倒され、魅せられた岡本は、日本の文化を見つめ直す旅に出ます。各地で撮影された写真は、芸術家の鋭い観察力に民族学的視点も兼ね備えた岡本独自のものでした。残された膨大なネタには、各地の風俗、祭りの他に各地の資料館や博物館で撮影された資料の写真を見ることもできます。

パリ時代の岡本が親しんだ場所の一つが人類学博物館でした。縄文発見の舞台も博物館でした。また、岡本太郎の最大のプロジェクトである大阪万博のシンボル太陽の塔に集められた世界各地の資料は、国立民族学博物館のコレクションとなり今に生き続けています。振り返れば、パリの人類学博物館は万博から生まれ、それを人生の大きな糧にした岡本太郎が大阪万博のシンボルを制作し、国立民族学博物館の礎を築いたのです。

本展覧会では、岡本太郎が撮影した写真を紹介し、また、太陽の塔内部に世界各地の仮面・神像が展示された地下展示「いのり」にしろい、福島県・東北地方の考古・民俗資料で「東北の太陽の塔」を構成・展示する予定です。



伊藤公象「JEWELの襲」



丸山芳子「境界線のはざままで」2001年製作

記念講演会「岡本太郎という思想」

講師：館長 赤坂憲雄
 日時：10月17日 午後1時30分～3時
 場所：福島県立博物館講堂
 無料

「ギャラリートーク」

講師：館長 赤坂憲雄
 日時：10月17日 午後3時30分～4時
 場所：福島県立博物館企画展示室
 無料（企画展チケットが必要）

特別
 協力

助成
 財団法人地域創造
 岡本太郎記念館
 川崎市岡本太郎美術館
 福島大学芸術による
 地域創造研究所

さらに、岡本太郎が博物館から多くを学び取ったように、福島県立博物館が次世代のアートの誕生に寄与するべく、アーティストたちに、博物館の展示・資料を開き、作品の創造を促したいと思います。常設展示室をはじめ館内各所に作品とその制作意図を説明したパネルが展示されます。博物館の収蔵資料はアーティストたちの創造意欲を高め、アーティストは資料に対するあらたな読みを示してくれることでしょう。

博物館体験を創造の源とし日本文化の深層に目を向けた岡本太郎と、郷土の歴史を紐解く次世代のアーティストたちの二つの視点が福島県立博物館の常設展示室で交差します。

記念講演会の他、参加アーティストによるさまざまなワークショップが行われます。博物館で創造の楽しさを満喫してください。

（美術担当 川延安直）

特集展

「第二回うつくしま自然展

―貴重なふくしまの自然を守る―

関連事業

◎ミュージアムイベント

「鶴ヶ城の自然を観察しよう」

平成二十二年八月一日(土)

講師 福島大学准教授 黒沢高秀さん ほか

豊かな生物相が残るとされる鶴ヶ城(若松城)周辺の自然観察をするため、「うつくしま自然展」の開催に合わせて実施されました。案内役は福島大学准教授黒沢高秀さん、日本野鳥の会会津支部林克之さん、福島虫の会三田村敏正さんのお三人です。自然展の参加団体の代表が専門分野の案内をしたものですが、贅沢な自然観察会になりました。なにしろ分からない植物、昆虫、野鳥を見つけたら即座にその道のエキスパートに答えてもらえるのですから。実際参加された方は思い思いに講師間を渡り歩き、関心事を尋ねていました。

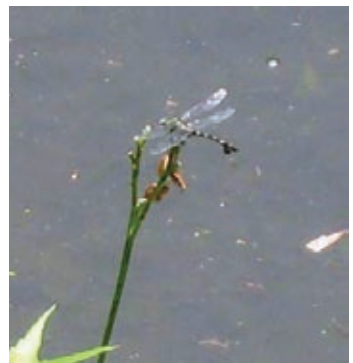
観察会は東門駐車場からお濠端を反時計に回り、椿坂から本丸跡に入った後、天守閣入口から踵を返して廊下橋を渡り博物館に戻る約二時間のコースで行われました。この日は朝から真夏の太陽が照りつける晴天に恵まれました。参加者は一〇代から七〇代までの二七名。五〇代から七〇代までが七割を占めています。ほかに自然展関係者が加わり総勢三十

数名になりました。

出発からセミが喧しく鳴いています。早速鳴き声からセミの特定の解説がありました。木の枝葉にはセミの抜け殻が盛んに見つかります。これを集め出した小学生は会が終わる頃は、両手にすくいきれない程になっていました。お濠に水が流れ込む埋門の堰では、トンボが群れて飛んでいます。三田村さんは捕虫網の柄を伸ばし見事な振りさばきでトンボを捕まえます。数匹捕まえました。腰の辺りの模様が空いているので、コシアキトンボという名前の謂れも聞きました。尻尾に二枚の団扇のような突起があるウチワヤンマ(写真)やコフキトンボ、数種のチョウを見ることができました。また、寒天質バスケットボール状の外來種オオマリコケムシという水中の生き物も観察できました。



お濠の生き物を観察する参加者ら (その先には…?)



ウチワヤンマの先にいたのはウチワヤンマでした(参加者の目線先で)

植物では、野草の一つ一つに特徴や見分け方の解説が付されま

す。エノコログサとおぼしき雑草を持ち込んだ参加者に、黒沢さんは、葉のつき方、葉の縁の形状などをルーペで細かく観察した後、エノコログサらしいと結論づけます。印象的に決定するのではなく、綿密に観察しそれでも疑問が残れば確定しない。この姿勢が生態系の変遷を明らかにし、新種の発見に結び付くのだと感じ入りました。

本丸跡ではシジュウカラの水浴び光景を双眼鏡で観察したり、スズメがアブラゼミを襲って食べようと奮闘している様子を観察したりしました。そして、極めつけは廊下橋を渡ったときです。参加者のひとりがかワセミを見つけた。林さんをはじめ野鳥の会の皆さんはフィールドスコープを立てて見せてくれます。岩石の翡翠の語源とされるかワセミ(漢字で翡翠)が空中停止から水中の子魚をダイビングキヤッチしようとする場面を目にすることができました。

「植物、昆虫、鳥と盛りだくさんで色々なお話が聞けて楽しかった。」「ゆつくりお城の自然に触れられてよかった。かワセミもじっくり見られた。」等満足の言葉を頂き、正午過ぎ散会となりました。

(自然担当 小澤義春)

Q：子どもが生まれてからの初めての宮参りにはどんな格好をさせればよいのでしょうか。

A：生後、男子だと五〇日目、女子だと五一日目に初めての宮参りをするということは、よく会津地方で言われることです。やはり区切りとなる儀式ですから、普段とは異なる衣装を着ることにあります。「掛衣装」と呼ばれるように、乳児に着せるのではなく上に掛ける紐付きの晴着です。かつては「掛頭巾」といって頭にかぶるものもあつたようです。掛衣装は模様も武者絵や鶴亀などの縁起の良いもので、なかなか美しいものです。一〇月二四日から

子どもの晴着

ポイント展で展示しますからぜひご覧ください。

Q：ところで着物に紐が付いているのはどうしてですか

A：子どもはある定まった年齢まで帯ではなく、着物に縫いつけてある紐で縛ることになっていました。これは帯だと未熟な幼児では扱いにくいという実用的な工夫だったと思います。でも、紐から帯への変化は見た目ですぐにその違いが分かるので、着ている子どもの年齢などを推測するのに役立ちますが、会津地方では三歳から帯に変わるといって一二月一五日に紐解きの祝いが行われています。一般に

七五三というように、七歳までが子どもとしての時期で、それまでの成長の過程で、三歳の紐解きをはじめ、五歳では男の子は袴を着るといったように年齢に合わせて着物を変えて行き、七歳という区切りを過ぎると半ば子どもの状態を脱してしまいます。

Q：子どもの小さな着物はかわいらしいものですが、ほかに小さな着物を作ることがあるそうですが。

A：はい、子ども用の着物よりもずっと小さな着物を作ることがあります。それは、裁縫の現場です。裁縫雛型といえます。その発生は明治以降の裁縫学校らしいのです。いま明らかになっていることだけ

Q&A 榎陽介 回答者 民俗担当

からいえば、家政大学の創設者渡辺辰五郎が、袴や洋風の衣装、裁判官や僧侶などの特別な衣装を習得するために、わざわざ実物大のものではなく、縮小した雛型で製作しようと思いついたことに始まると思います。明治時代のことと、同時期に同じようなアイデアがあつたようで、各地で見ることが出来ます。箆笥の覆いである油筆、蚊帳などから洋風なシャツや女兒の単服などかわいらしいものまでいろんな種類があります。桑折町の伊達崎小学校には三〇数点ものこうした裁縫雛型が保管されています。須賀川市立博物館にも洋装も含めた雛型が収蔵

されています。先日喜多方市の塩川地区で製作された雛型と縮小用の物差である雛尺が寄贈になりました。塩川の町中の小学校の高等科で製作したらしいのですが、詳しいことは分かっていません。それにしても小さなものというのは本当にそれだけかわいらしいもので、人の気持ちを引きつけますね。



カケインシヨウ 会津若松市
黒絹地義経鶴越文様平袖紋付単衣一ツ身祝着

新聞人平島松尾(ひらしままつお) (一八五四〜一九三九) ―明治ふくしま新聞創刊のパイオニア―

星 幸 歴史担当

今からちょうど七〇年前、明治ふくしまの新聞史に大きな足跡を残した新聞人が八六年の生涯を閉じました。その人の名は平島松尾と言います。おそらく、ご存知の方は少ないでしょう。彼の地元二本松でさえその知名度は低く、一般的にはほとんど無名に近い存在となっています。ところが明治期福島県自由民権史・新聞史を紐解く時、平島松尾の名前は常についてまわり、彼の寄与した数々の業績に驚かされるのです。特に明治ふくしまの新聞興亡史は平島松尾で語ることはできず、近代新聞黎明期のキーパーソン・新聞創刊のパイオニアとして活躍しました。



写真1
「平島松尾肖像：昭和8年元旦傘寿(80才)記念写真」
(写真提供：平島治氏、平島フク氏)

平島松尾は二本松藩士平島正就の長男として生まれ、一四歳で戊辰戦争にも出陣。小学校教師・大蔵省職員・県職員などの転職を重ねた後、一八八一(明治一四)年、福島日報社に入社しジャーナリストの道を歩み始めます。ここで河野広中(一八四九〜一

九二三)との運命的な出会いをし、自由民権運動に身を投じていきます。福島自由党が結成されると、平島は一切の党务を統括し実質的な最高指導者となりました。河野と平島は自由と平等、権利獲得のために命がけの運動を展開し、福島県自由民権運動をリードしたのです。平島は河野にとって信頼すべき最高の右腕でした。河野は平島を評し「余は得難き好個の同志を得たり。彼は実に福島における片岡健吉(自由党総理板垣退助の右腕)である」と最大級の賛辞を送っています。また平島は、民権思想を啓発・普及するための新聞発行にも情熱を燃やしました。一八八二(明治一五)年、平島は自由民権派の機関紙「福島自由新聞」を創刊します。しかし、自由党撲滅をめざす鬼島令三島通庸によって、わずかに七号をもって廃刊に追い込まれます。さらに同年の福島事件で国事犯として逮捕・有罪となり、平島は六年間の獄中生活を送ることになったのです(河野は軽禁獄七年)。福島自由民権運動は挫折し冬の時代を迎えます。この絶望的状况を脱し人生の大きな転機となったのが、一八八九(明治二二)年の「大日本帝国憲法発布」と翌年の「国会開設」でした。この憲法発布の大赦により平島は出獄。自由の身となったことで政界への転身を果たし、今度は国会議員と新聞人の立場で自由思想を広めるといふ道が開けたのです。一八九二(明治二五)年、ついに平島は「福島自由新聞」廃刊の無念を晴らすべく、自由党の機関紙「福島民報」を創刊しました。ところが、のち勃発した内部抗争に敗れ民報を追われます。平島は自身が生み育てた民報を断腸の思いで去ったのです。平島はその悔しさを糧に民報に対抗する新聞発刊をめざします。そして誕生したのが一八九九(明治三二)年創刊の「福島民友新聞」(一八九五年創刊の福島実業新聞→東北民声の号数を引き継ぐ)



写真2
「福島民報創刊号一面」
(写真提供：福島民報社)



写真3
「福島民友新聞創刊号一面」
(写真提供：福島民友新聞社)

でした。それから百数十年、「福島民報」と「福島民友新聞」は戦時下の統合時代(昭和一六〜二一年)を除き、ライバルとして共存いや競存してきました。現在でも、福島県は「一県二大紙体制」を堅持。こうした二大地方紙が拮抗する県は全国でも珍しく、沖縄県と福島県の二県のみです。平島松尾の創立精神が未だ息づき両社の繁栄を支えている、そんな気さえしてきます。「両雄並び立つ」福島県新聞界の歴史と伝統は、全国に大いに誇るべきことでしょう。民報・民友をこの世に生み、名実ともに新聞王国福島の礎を築いた平島松尾。今年(一九三九)周年にもあたるため、テーマ展「ズームアップ！平島松尾―明治ふくしま新聞創刊のパイオニア―」(一月二八日〜一月三十一日)の開催を予定しています。関連資料を紹介し、埋もれがちな平島の功績にスポットをあてたいと思います。たくさんのご来場、お待ちしております。

平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業

〈漆のくに・会津〉プロジェクト



漆の苗木

ワークショップ

私の漆を育てよう2—漆の木を植える

日時：11月15日(日)13:00~17:00(予定)

講師：NPO 法人はるなか漆部会のみなさん

定員：20名(先着順・10月15日より募集開始)

集合場所：福島県立博物館通用口

会場：喜多方市内(バスで移動)

参加費：無料

シンポジウム

漆のチカラ～産地の現状とこれから～

日時：11月21日(土)14:00~16:00

パネラー：初澤敏生さん(福島大学教授)

竹内克己さん(福島県ハイテクプラザ技術支援センター専門研究員)

井波純さん(会津大学短期大学部准教授)

小松勇さん(青森県産業技術センター弘前地域研究所主任研究員)

コーディネーター：赤坂憲雄(福島県立博物館長)

司会：小林めぐみ(福島県立博物館学芸員)

会場：福島県立博物館講堂

参加費：無料

申込：不要

会津の漆文化を体験・共有できるプロジェクトが始まりました。会津で育まれてきた漆文化の豊かな歴史、素材としての魅力、漆文化の将来などを皆さんと考えていきます。11月にはワークショップとシンポジウムが行われ、平成22年の1、2月には赤坂館長とゲストによるトークイベントも予定されています。ぜひご参加ください。

■冬の特集展は平成三十二年二月三日(土)より開催します。



整備された
郡山市大安場古墳

皆さんのご来館をお待ちしております。
(考古担当 田中 敏)

先人が築き上げ、守り伝えてきた文化財を大切に保護し、後世に継承していくことは、現代に生きる我々の責務です。このような趣旨から、国や地方公共団体は、歴史上または学術上、特に重要と考えられる遺跡を、文化財保護法の規定によって「史跡」に指定し、保護しています。

今回の特集展では、県内に所在する国史跡のうち、平成になってから指定された史跡を中心に紹介しながら、文化財の保護と活用、さらにはその意義について考えます。

この機会に、我々の身近にある貴重な文化財が、日本の歴史上、どのような意義を持っていたのかについて考えてみてはいかがでしょうか。

特集展
平成新指定史跡展覧

— 未来へつなぐ福島の遺跡 —

冬の展示予告

企画展

※は要申込

「岡本太郎の博物館・はじめる視点」
博物館から覚醒するアーティストたち
会期 10月10日(土)～11月23日(月)
企画展関連行事
○実技講座
※「仏様は何を着ていたのかな? 着てみよう&見てみよう」
講師 国府由美子さん
日時 10月10日(土) 13時30分～14時30分
ワークショップ
※「光りのらくがき」
講師 美術家 吉田重信さん
日時 10月11日(日) 13時30分～15時
※「うぶすなアートラボ」
お面で自分の顔を変身させよう!
講師 美術家 出町光識さん
日時 10月12日(月) 13時30分～15時
○企画展記念講演
「岡本太郎という思想」
講師 館長 赤坂憲雄
日時 10月17日(土) 13時30分～15時
ワークショップ
※「新聞紙を丸めて貼って子豚を作ろう」
講師 美術家 山本伸樹さん
日時 10月18日(日) 13時30分～15時
※「縄文人の家を飾ろう 竪穴住居に花飾り」
講師 美術家 キジマ真紀さん
日時 10月24日(土) 13時30分～14時30分
※「縄文人の家を飾ろう 竪穴住居をクリッピング」
講師 美術家 塩谷良太さん
日時 10月24日(土) 14時30分～15時30分
○公演
「山田広野と見る「はじめる視点」ツアー」
講師 活弁士・映画監督 山田広野さん
日時 10月25日(日) 15時30分～16時30分
○パフォーマンス
※「大字揮毫 けんばくで書く・時間を書く」
講師 書家 川島大佳さん
日時 11月1日(日) 13時30分～14時30分
ワークショップ
※「段ボールで作るはにわとおもしろ動物」
講師 美術家 わたなべあずささん
日時 11月7日(土) 13時30分～15時
ワークショップ
※「うぶすなアートラボII」
目玉土曜のお面で博物館を冒険しよう!
講師 美術家 出町光識さん
日時 11月8日(日) 13時30分～15時
ワークショップ
※「黄金発掘」
講師 美術家 吉田重信さん
日時 11月22日(日) 13時30分～15時

○公演
「アンケートアート 岡本太郎についてどう思いますか?」他
講師 美術家 松本祐一さん
日時 11月23日(月) 15時30分～17時

テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「けんばくの宝2009」
会期 10月10日(土)～11月23日(月)
「ズームアップ! 平島松尾」
明治ふくしま新聞創刊のバイオニア
会期 11月28日(土)～平成22年1月11日(月)

ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「福島県教育のあゆみ」
会期 10月22日(木)～11月18日(水)
「宮参りと晴着」
会期 10月24日(土)～11月23日(月)
「紙漣き」
会期 12月19日(土)～平成22年3月31日(水)

ミュージアムイベント

「クリスマスコンサート」
「ミュージカルとオペラが奏でる母の愛」
講師 メゾソプラノ歌手 伊藤郁子さん
ピアノ 大山優子さん
場所 エントランスホール
日時 12月19日(土) 13時30分～15時

木曜の広場「会津農書」の世界

第7回「会津農書」にみる収穫儀礼
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 10月2日(金) 13時30分～15時
第8回「会津農書」の農具たち
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 11月5日(木) 13時30分～15時
第9回「会津農書」にみる衣・食・住
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 12月3日(水) 13時30分～15時

講演・講座

○文化庁「文化芸術による創造のまち支援事業」
対談「舞踏の東北・太郎の東北」

講師 舞踏家・東北芸術工科大学教授 森 繁哉さん
館長 赤坂憲雄
日時 10月2日(金) 15時30分～16時30分
森繁哉ダンスパフォーマンス「展示室から」
講師 舞踏家・東北芸術工科大学教授 森 繁哉さん
日時 10月3日(土) 13時00分～13時30分・16時～16時30分
対談「語る身体・舞踏の記憶」
講師 舞踏家・東北芸術工科大学教授 森 繁哉さん
福島大学芸術による地域創造研究所長 渡邊寛一さん
日時 10月3日(土) 14時15分～15時15分

○文化庁「美術館・博物館活動基盤整備支援事業」
※「漆のく」会津プロジェクト ワークショップ
私の漆を育てよう2 漆の木を植える
講師 NPO法人はるなな漆部会の皆さん
会場 喜多方市
日時 11月15日(日) 13時～17時

シンポジウム「漆のチカラ」産地の現状とこれから」
パネラー 福島大学教授 初澤敏生さん
福島ハイテクリサーチセンター専門研究員 竹内寛己さん
会津大学短期大学部准教授 井波 純さん
青森県技術センター弘前地域研究所主任研究員 小松 勇さん
コーディネーター 館長 赤坂憲雄
会場 講堂
日時 11月21日(土) 14時～16時

○歴史講座
※「やさしい古文書講座1」
講師 学芸員 阿部綾子
日時 10月10日(土) 13時30分～15時00分
※「やさしい古文書講座2」
講師 学芸員 阿部綾子
日時 10月14日(土) 13時30分～15時

展示室講座「ズームアップ! 平島松尾」
明治ふくしま新聞創刊のバイオニア
講師 学芸員 星 幸
日時 11月28日(土) 13時30分～15時
※「やさしい古文書講座3」
講師 学芸員 阿部綾子
日時 12月12日(土) 13時30分～15時

○美術講座
展示室講座「けんばくの宝2009見どころ解説」
講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ
日時 10月31日(土) 13時30分～15時
※「勾玉・ガラス玉を作ろう」
講師 学芸員 横須賀倫達
日時 11月7日(土) 13時30分～16時

○民俗講座
学芸員 佐々木長生と民俗を語る1
講師 福島県民俗学会 岩崎真幸さん 学芸員 佐々木長生
日時 11月21日(土) 13時30分～15時
学芸員 佐々木長生と民俗を語る2 ふくしまの海の民俗
講師 福島県民俗学会 二本松文雄さん 学芸員 佐々木長生

日時 12月5日(土) 13時30分～15時
○自然史講座
※「化石をさがそう」
講師 学芸員 相田優ほか
日時 10月10日(土) 9時30分～15時45分
※「化石標本をつくろう」
講師 学芸員 竹谷陽二郎ほか
日時 10月11日(日) 13時30分～15時30分
※「鶴ヶ城の野鳥」
講師 鳥類研究家 古川裕司さん
日時 11月15日(日) 13時30分～15時30分

○実技講座
※三島の編み組細工1「山ぶどう細工」
講師 伝統技術保持者 菅家藤一さん
日時 11月1日(日) 13時30分～15時30分
※三島の編み組細工2「ひろろ細工」
講師 伝統技術保持者 菅家藤一さん
日時 12月6日(日) 13時30分～15時30分

○実演
「音語り」
講師 語り部 横山幸子さん
日時 10月11日(日) 13時30分～15時

※展示解説員による常設展総合展示の案内です。
*毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

常設展無料観覧日
11月3日(火)文化の日

企画展無料観覧日
ふくしま教育週間 11月1日(日)～11月7日(土)

10月～12月の休館日
10月 5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)
11月 9日(月)・16日(月)・24日(火)・30日(月)
12月 7日(月)・14日(月)・21日(月)・24日(木)
年末の休館日 12月28日(月)・29日(火)・30日(水)・31日(木)

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
*その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定やホームページをご覧ください。